

【成果情報名】「さちのか」の長崎型高設栽培における天敵チリカブリダニの放飼による発生動態とハダニ類に対する防除効果

【要約】イチゴ「さちのか」の長崎型高設栽培において、チリカブリダニは11月～3月にかけて3回放飼することにより株内に定着し、長期間ハダニ類を低密度に抑制する。

【キーワード】イチゴ、高設栽培、さちのか、チリカブリダニ、ハダニ類

【担当】総合農林試験場・環境部・病害虫科

【連絡先】電話0957-26-3330、電子メール m.komine@pref.nagasaki.lg.jp

【区分】野菜（生産環境）

【分類】指導

【背景・ねらい】

近年、イチゴの生産においては、高設栽培の導入により、省力化や規模拡大が図られている。また、安全・安心な農産物の生産が求められており、これまで地床栽培においては、重要害虫であるハダニ類等に対してチリカブリダニなどの天敵利用が検討され、技術確立されつつある。

しかし、栽培様式を大きく異にする高設栽培においては、これら天敵利用に関する防除効果は明らかでない。さらに、本県では栽培品種も「とよのか」から「さちのか」への転換が進み、ハダニ類の発生様相に大きな変化がみられる。

そこで、「さちのか」の長崎型高設栽培におけるチリカブリダニの発生動態とハダニ類に対する防除効果を明らかにする。

【成果の内容・特徴】

1. 「さちのか」の長崎型高設栽培において、チリカブリダニは、11月下旬、2月下旬、3月中旬の3回、10a 当たり6,000頭ずつイチゴの株上から放飼することにより定着し、ハダニ類の発生を長期間低密度に抑える（図1、図2）。

【成果の活用面・留意点】

1. チリカブリダニの放飼は、ハダニ類の密度を低くした後に行う。
2. チリカブリダニの利用期間は、他の病害虫防除において本種に影響の少ない体系とする。
3. 「さちのか」の長崎型高設栽培では、ハダニ類が多発しやすい傾向であるので、チリカブリダニの放飼時期や放飼量については、経済性を加味しながら、今後さらに検討する必要がある。

[具体的なデータ]

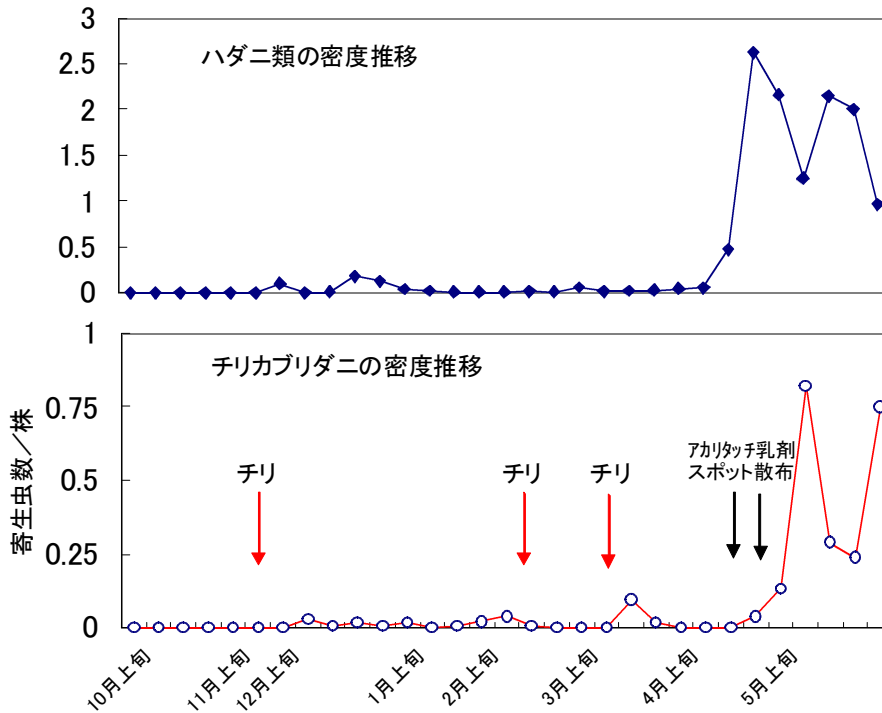


図1 「さちのか」の高設栽培におけるチリカブリダニとハダニ類の密度推移

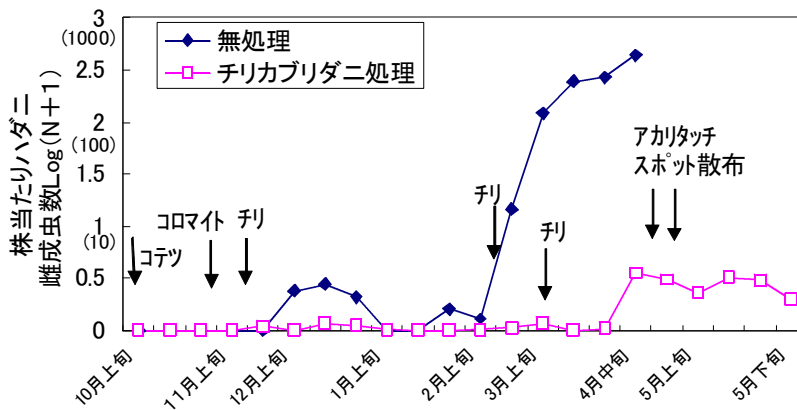


図2 「さちのか」の高設栽培におけるチリカブリダニのハダニ類に対する防除効果

表1 試験における防除体系

月日	薬剤	月日	薬剤
9.27	コテツフロアブル2000倍	11.22	ホトキラダゲ外処理開始 以降毎日処理
10.6	トルネードフロアブル2000倍	11.26	チリカブリダニ 6000頭/10a
10.12	トルネードフロアブル2000倍	2.2	チリカブリダニ 6000頭/10a
10.21	ロムダンフロアブル2000倍	3.10	チリカブリダニ 6000頭/10a
10.27	モスピラン粒剤	3.31	マツチ乳剤1000倍
10.29	テルフィン水和剤1000倍+フルビカフロアブル2000倍	4.20	アカリタッチ乳剤2000倍(スポット散布)
11.8	コロマト水和剤2000倍+トリアミン水和剤3000倍	4.27	アカリタッチ乳剤2000倍(スポット散布)

[その他]

課題課題名：イチゴ高設栽培における病害虫の効率的・総合管理技術の開発
 予算区分：県単
 研究期間：2004～2008年度
 研究担当者：小嶺正敬、内川敬介